

## 福江

## 基礎データ

- 【人口】4,449人(H21.9.30現在)
- 【世帯】1,357世帯(H21.9.30現在)
- 【面積】約730ha
- 【公共施設】福江保育園・福江小学校・あつみライフランド(渥美福祉センター)
- 【史跡】保美貝塚・杜国公園・烏丸大納言の墓
- 【主な産業】商業・農業・漁業



●福江市民館

## 校区の特色

旧渥美町の中心地域であった福江校区は、金融機関や商店、飲食店などが多く立ち並ぶ福江地区、それを取り巻くように位置する農漁業が盛んな長沢・保美・向山地区からなります。

## 歴史と産業

保美・福江地区には貝塚があり、古くから人々が住んでいたことが分かっています。特に、保美貝塚は渥美半島三大縄文貝塚の1つで、現在、発掘調査が行われています。

江戸時代には、向山に新田が開発され、畠村(福江地区の旧称)からの分村につながりました。

明治になると、福江出身の挿絵画家・宮川春汀と交流のあった多くの文人がこの地を訪れました。柳田国男の来訪が、詩歌『椰子の実』誕生につながったことはあまりにも有名ですし、田山花袋の『一兵卒』には“福江村”が登場しています。

戦時中は、マオランを原料とした軍用ロープの製造が、戦後は、冬の強風を利用した沢庵の製造が盛んでした。

現在では農産物も多様化し、施設園芸が盛んになりました。これには豊川用水の通水が大きな役割を果たしていますが、長沢地区に

ある「中明池」のように、特定の地区に農業用水を供給する“ため池”の存在も忘れてはなりません。



●中明池

また、かつて盛んだった海苔の養殖を、福江小学校の5年生が総合学習の時間で体験しています。



●海苔の養殖体験

## まちづくり

地域住民を中心とする「福江地区まちづくり会議」により、『まちづくりビジョン』を作成しました。市民・団体・行政が一体となって、歩道橋への菜の花写真のラッピングや、すずらんの花をかたどった街路灯の設置、松尾芭蕉の弟子・杜国の屋敷跡の整備、また免々田川



●福江歩道橋の菜の花ラッピング

## ●杜国屋敷跡



沿いへのカワヅザクラや菜の花の植栽などを行っています。

## まつり

毎年10月には、各地区でお祭りが行われます。福江地区では、5台の山車を繰り出します。担い手不足という課題もありますが、子どものお囃子隊や女性の踊り隊などの参加で新たなにぎわいも生まれてきました。

また、長らく途絶えていた盆踊りを地元有志が復活させ、校区夏まつりとして受け継ぎ、毎年多くの人たちが参加しています。

## 新・市民館

今年8月、待望の新しい福江市民館が完成しました。旧渥美町役場庁舎だった建物の一部を残し、外観も創建当時の様相を模したのになっています。多目的ホールも完成し、10月25日(日)には新市民館で初めての市民館まつりを行いました。子どもからお年寄りまで、校区民が気軽に立ち寄れる場所になることを願っています。